

昨年の春、京都の事務所をたたみ雨竜に

良い雰囲気予想以上

「仕事は充実している。敷居を低く」

司法書士月1回ベースで無料相談会

こともあったが、実際は違うことを体感している。アフターフォローなどの見えない点も含めれば仕事は充実している。移転前にもつばら裁判関係の業務だったが、登記業務と裁判関係が同じくらいのウエートを占めている」と、最初の1年目を振り返った。

「会社機関設計の柔軟化や会社制度の整理を企図した会社法の改正など法律改正ラッシュ」のなかで司法書士の業務範囲も広がっている。各地の研修会に出席して自己研

「多重債務や悪質商法は予備知識があれば防ぐことが可能。被害の若年化も進んでいる。法律家に対する敷居が高く、相談料に対する心配の声も耳にする。だからこそ中高生を対象にした出張講座や勉強会などを積極的に開いていきたい」と抱負を語る。

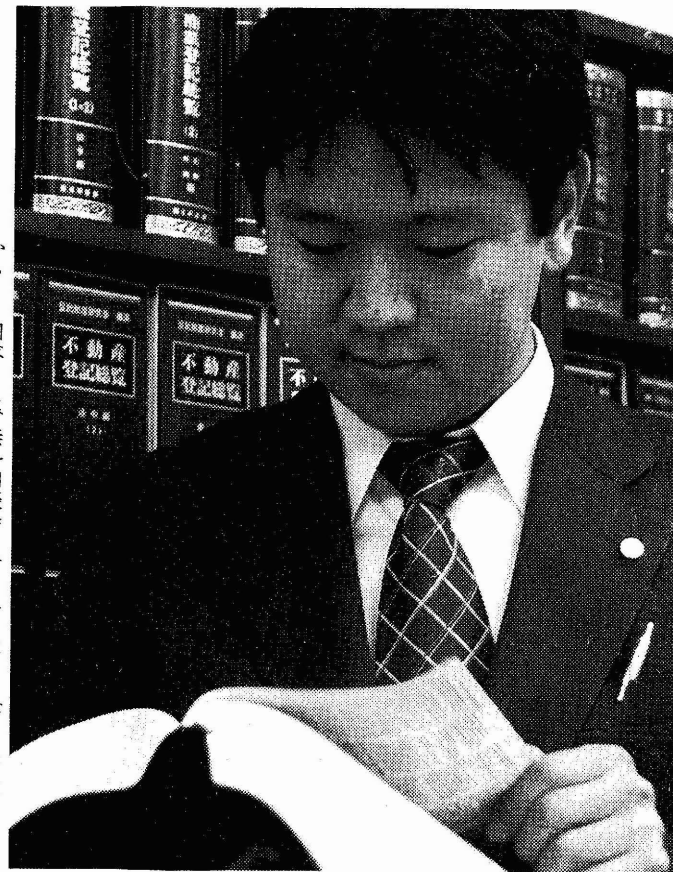
「17年は駆け出しで遊びに行く機会もほとんどなかった。18年は仕事の充実はもちろん、せっかく自然の美しいところに来ているのだから、いろいろなところに足を伸ばしてみたい」

9月から月1回ベースで無料相談会を行い、10月には悪質商法と多重債務の対策と防止策についての消費者講座を雨竜町内で初開催するなど精力的に業務を展開している木村司法書士事務所の木村幸一司法書士(30)。平成17年春、京都市下京区の司法書士事務所を雨竜町内に移転した。

「温かい人間関係や居心地の良い雰囲気は、『予想以上』と感じた最初の印象と同じ。地方だから仕事がないという声を聞く

んを進めながら「生活に關与する法律も多い。関心ある物をどんどん周知活動や勉強会などの形で行っていききたい」とさらなる構想を膨らませている。

町内に司法書士事務所があるのは数十年以来。「にっちもさっちもいなくなつて相談に来る人が地域に限らず多い。最後のより所といった観もあり、失敗やったことがないは通用しない。いい意味での緊張感がある」と朗らかに話した。



雨竜 木村幸一さん